

日付:2015年2月1日／聖書:ルカによる福音書7:36～50

主題:「安心して行きなさい」

この世は様々な価値観、常識に囚われている現状があるが、しかし聖書はそれを覆すものだったりする。たとえば、「貧しい人々は幸いである」というイエスの言葉は、この世の価値観では考えられないこと。どうして「貧しい人々」が幸いなのか？ ただイエスがそう語られる時、私たちの目はそういう状況に置かれた場に向けられて行く。富んでいる者が幸いと思っている私たちの価値観がゆさぶられる。私たちの価値観、常識を解き放してくれるのがイエスの言葉であったりするわけである。

イエスは、ファリサイ派シモンから食事に招かれた。ファリサイ派とは厳格な律法主義である。そこに一人の女性が入って来た。この女性は、イエスに対し涙で主の足を濡らし、自分の髪で拭き取り、その足に接吻し香油を塗った。この女性のこれ以上ない主イエスに対する喜びの表現である。その行為を見たシモンは心の中で「自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。するとイエスはシモンに譬話をする。500デナリオンと50デナリオンの借金をした二人が、どちらも返すお金がなかったので、金貸しは、両方の借金を帳消しにしてやった。二人のうち、どちらが多くその金貸しを愛するだろうか・・・と、シモンに問うた。そして、当然ながら多く借金を帳消しにしてもらった者ですと答えて、イエスは「その通りだ」と言う。ただここでの問いは、シモンあなたは、そういうふうはこの女性を見ていたのではないのか・・・と問われているということ。ここでは「罪深い」とされていた女性とファリサイ派シモンの罪の大きさとか、愛の大きさの比較が、問題になっているのではない。大事なことは、譬えの中で金貸しが両方の借金を帳消しにしたことが大事になる。シモン、あなたの罪も、この女性の罪も、神の目から見れば、同じであり、赦すことも、愛することも同じなんだというメッセージがある。

イエスはこの女性に「あなたの罪は赦された・・・安心して行きなさい」と言う。「安心して行きなさい」とは、これまでこの世の常識、律法の習わしにおいて、「罪深い女」とレッテルを貼られて生きてきた。身を隠すように生きてきたこの女の人に対し、イエスは「あなたの罪は赦されているんだよ、だから、胸を張って、堂々と安心して、これからの人生を歩みなさい」ということであろう。これ以上ない、イエスの励ましである。それが福音であり、信仰として生きることである。(神谷)